

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2870600786		
法人名	有限会社 K Y T		
事業所名	グループホームいろり		
所在地	神戸市長田区御屋敷通6丁目2-26 (電話) 078-643-3456		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年8月16日	評価確定日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	29人	常勤	16人, 非常勤 13人, 常勤換算 29人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	450円	おやつ	200円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	27名	男性	1名	女性	26名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	12名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.9歳	最低	70歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若宮病院・石川リハビリ脳神経外科クリニック・李齒科医院・協同病院・八十嶋病院
---------	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR、神戸市営地下鉄、山陽電鉄等最寄の駅より徒歩5分程度の住宅地に隣接している。周辺には、飲食店、スーパー等商店街があり、利用者全員と各階の職員が毎日食材の購入に出かけている。その人らしく生活することの支援を理念として、「近隣のあいさつ、地域行事の参加、運営推進会議」等地域の一員として日常生活をおくることをモットーに、職員が自立支援を行うに際し、できる、できないを見極め、利用者同士の助け合いにつながるような支援を心がけている。今後は、評価結果を踏まえて、さらなる職員の質の向上をめざし、引き続き取り組まれることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価を「いろり速報」で報告したり、運営推進会議で意見をいただくなどして、利用者支援に取り組んだ。また、ユニット間の職員の連携を密にして、記録などを確認して、課題に積極的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	月5回の職員会議の中で、各階のリーダーが中心になって自己評価を行った。今後は、正規職員以外のパート職員などからの意見も取り入れるなどして、自己評価に取り組まれることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員等の参加を得て、2ヵ月に1回必ず地域の喫茶店で開催している。会議の中で、利用者も地域の一員であることを明確にするため、自治会費を支払うよう提案があり、利用者家族と話し合いの上、取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族には、毎月の「いろり速報」でホームの状況や苦情の対応結果等を報告している。苦情箱も設置しているが、苦情は投函されておらず、直接職員が意見・苦情を聞いていることが多い。なお、利用者家族から出された意見については、職員会議に諮り、どのように対応するか検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会の行事や近隣の掃除等利用者の能力に応じて順番に参加している。また、毎日の外出においても、地域住民と挨拶を交わす等馴染みの関係ができています。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時より、認知症であっても日々なんら変わりなく地域で生活ができるように職員と話し合い、独自の理念をつくりあげている。利用者の自立支援を目的として日々関わることにより、その人らしく日常生活が出来るようにつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を意識できるように各ユニットの入り口や事務所に掲示している。また、日々の生活の中で、職員が連携を取り、同じ方向を向き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会が2カ所あり、その行事には利用者と共に参加している。また、いりり独自の行事の際には、地域の方々に呼びかけ、参加していただいている。その他食材の買い出し等でも地域の人々と挨拶を交わすなどして、馴染みの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月5回の職員ミーティングの中で自己評価及び第三者評価を各職員で検討した。利用者家族にも評価を行うことの意義を報告している。また、ホーム内に評価結果をファイリングしており、利用者家族がいつでも閲覧できるようにしている。		全職員が自己評価及び第三者評価の意義を理解できるよう、パート職員も巻き込んで第三者評価に取り組むことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われた内容は、各ユニットリーダーとミーティングで話し合い、取り組んでいる。運営推進会議の中で提案のあった名札の準備や、今回は地域住民の一員として自治会費を納める事等家族と話し合い決定した。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携は図られている。市担当者は、運営推進会議への出席が少ないため、ホームから出向いたり、電話で相談を行ったりして協力体制を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「いろいろ速報」で、ヒヤリハットやホームの状況を報告し、金銭管理も「おこづかい精算表」を作成して、毎月家族に渡している。また、現金出納帳も個別に作成し、退居時、確認の後に押印いただいている。家族には、来所の際に個別に対応して記録等を見せて説明している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は、職員の目に付きにくい所に配置し、入れやすい仕組みになっている。しかしながら、あまりご意見箱は活用されず、利用者家族が直接職員に話をする事によって解決していることが多い。		職員に話されていることが、必ずしも家族の本心とは限らないので、家族の本音を引き出すためにも、ご意見箱の活用の仕方や家族の意見を組織的に運営に取り入れる仕組みについて検討することが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットで職員を固定しているが、人手不足の時は各ユニットに応援に行っている。各ユニットのリーダーは1～3階の全ての利用者の状況を把握し、問題があれば会議で逐一報告し、できるだけ異動による影響が利用者に出ないように努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームに講師を招いて全体研修を行ったり、事務所の経費で他県の研修にも参加し、研修後は報告書を提出している。報告を元に各ユニットリーダーと共に、サービスの検討を行っている。また、本人の意欲によって、学習の機会が確保される仕組みになっている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会に加入している。独自で研修を行ったり、ネットワークを活用した交流を行っている。また、見学会や勉強会を通じて意見交換も行っている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に利用者家族と話し合い、帰宅願望が強く表出した時等は利用者がホームに馴染めるように何度も職員が付き添うなど工夫している。また、家族にもホームに訪問してもらえよう協力体制を取っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の仕方等職員が学び、一緒に笑ったり、悩んだりして、共に支えあう姿勢のもとに、利用者とは分かち合うことをモットーとした関係を築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本位の生活の中から思いや意向を把握している。対応困難な場合にも利用者が何を訴えたいのか職員間で記録も含めて連携を取りながら対応している。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族・介護支援専門員を中心に聞き取りを行い、会議の中でその方にできることを見極めて、地域の一員として暮らしていけるように検討しながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月5回のミーティング等により、日々の状態に応じてその都度見直している。利用者にも聞き取り、職員間・利用者家族ともミーティングの中で話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者に応じて家族でできない部分の支援を行い、また以前関わっていた介護支援専門員とも連携を持ち柔軟な対応をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>初回利用時に、家族より聞き取り支援している。月4回協力病院の医師が往診している。かかりつけ医の受診が家族対応となっているため、家族に負担がかかることもあり、家族は月4回の協力病院の医師の往診に期待している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在終末期の利用者も利用している。医師も終末期ケアに熱心であるため、医師・家族・職員が協力して終末期の利用者のケアを行っている。また、状況をスタッフ間で共有しあうことで対応している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊厳を損ねないような言葉使いをし、日々の対応に対してスタッフ会議等で徹底している。また、職員はさりげなく声をかけたり、夜間はソファで休んだりして、変化に気付くようにしている。排泄については、利用者の尊厳を損なわないよう声かけを行い、特に配慮して対応している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食材の買い出し、洗濯物の整理整頓も含めて一人ひとりのペースを大切にしている。体調等の様子を見ながら、利用者のプライドを傷つけないように支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日朝に利用者と職員が広告を見て、当日の献立を考え、食べたい物を中心に職員と利用者で話し合いながら食事の準備・片付けを行っている。ユニットごとに食事の内容が異なり、利用者との会話を楽しみながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日の流れの中で利用者の希望に添って入浴支援をしているが、午前中は買い物があり、そのため午後に入浴を行っている。その時々利用者の様子を見て、利用者が楽しんで入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に日々できることを観察し、個人の役割を大切にしている。利用者から東京に行きたいとの声が上がリ、2回目の1泊2日の旅行も行った。外出も多いため、身だしなみにも気を配り、毎月の5日までに全員が理容・美容ができるように計画している。利用者が行けない時は、出張理・美容をお願いしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物は全員で行っているが、利用者が別途に買い物へ行く場合には、利用者の希望に沿って各ユニットの職員が付き添い、出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が道路に面しており、生命の危険があるため、玄関のみ鍵を掛けている。その他は1階～3階は、鍵を掛けないでオープンにしている。家族にも不安があるので、利用者が外出したい時は、職員が付き添い個別に対応している。		事業所として、鍵をかけないケアの可能性について検討を重ねていきたいとの意向もあるので、今後も引き続きの検討を期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議で、緊急時にホームの利用者と分かるように名札作成の提案があり、利用者が安全に避難できるような対応を行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量は、1日1 を目標に支援している。不足分については、自由に飲めるように配慮している。飲めていない方についても記録等で確認し、できるだけ飲むことを促している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットは、スッキリと整理・整頓をしている。さりげなく季節の物(金魚の置物等)を配置している。各部屋も眼から取り入れる情報を大切に、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇・ベット等使い慣れた物を持参している。また、家族の訪問時には、一緒に過ごせるように布団を貸し出したり、お正月・お盆にもできるだけ家族と一緒に過ごせるように配慮している。</p>		

 は、重点項目。